



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1937, 17(193): 275-279


ISSUE DATE:

1937-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167457>

RIGHT:



東亞天文協會

—(觀測部月報)—

黃道光課報告 (1937年2月分)

課長 荒木健兒

廣瀬君、佐野君、大石君、本田君の觀測がある。最も盛に活動したのが岐阜縣の廣瀬君で、西天6個と對日照2個とがある。本田君の觀測と比して考へると、最も明るい出現を見せる2月の西天が今年は非常に淡く、殊に中旬は例年の半分或はそれ以下であつた。廣瀬君は細い月を遮蔽して觀測したが、空氣が冴えてをれば可能らしい。東天は佐野君と本田君とにより調べられてゐるが、銀河があつて困難を極め、本田君は黃道光ではあるまいといひ、佐野君は確かに黃道光であるといひ、判然しない。

9日の夕、廣瀬君と佐野君とが期せずして同時觀測になつてゐるが、明るさの記錄に驚くべき差違があるのは興味深い。これは金星の妨害にもよるのであらうが、兩地方の氣象的條件の差違が大いに關係してゐることを暗示してゐる。

黃道光の眼視觀測は、一定の土地で黃道光の中心線の位置に主力を注げば、永年の連續觀測は誠に意義深いものがある。觀測を希望する諸君は瀬戸觀測所に申込んでほしい。氣象との關係から、觀測者の地方分布を必要とする今日である。よろこんで御相談にのる。

遊星面課月報 (3月)

火星協同觀測は已に開始された。前田氏1枚、渡邊氏3枚、木邊課長2枚のスケッチがあり、運河も數個認められて居る。4月に入つて見取圖は激増する豫定。

火星と共に木星が少し遅れて東天に昇るから、火星を見て餘裕があれば木星の見取圖もとつて頂き度い。尙、木星は赤道帶の變色期に近付きつつある時だから特に赤道帶の色彩に注意され度い。今月より火星中央經緯度表と共に、木星の赤道帶 (System I) 及其他の帶及縞 (System II) の中央經度表をも併せ掲げる事としたから利用され度い。(伊達)

木星 (J.C.S.T 9h)		木星 (J.C.S.T 9h)		木星 (J.C.S.T 9h)	
System I	System II	System I	System II	System I	System II
273.4	304.4	8.3	308.2	104.4	312.3
71.3	94.7	166.7	98.5	262.4	102.6
229.2	245.0	324.6	248.8	60.4	253.0
27.2	35.3	122.6	39.1	218.4	43.3
185.1	185.6	280.6	189.5	16.4	193.7
343.1	335.9	78.6	339.8	174.4	344.1
141.0	126.2	236.5	130.2	332.4	134.4
299.0	276.5	34.5	280.5	130.4	284.8
96.9	66.8	192.5	70.8	215.2	2.7
254.9	217.2	350.5	221.2	13.2	153.0
52.8	7.5	143.4	11.5	171.2	303.4
210.8	157.8	306.4	161.9	329.2	93.8

但し、木星中央經度表中6月の分は全部日本中央標準時 7^h の値。

木星の經度移動表(時, 分の移動)は伊達幹事宛御申込下さい。尙、木星經度は System I は1分間に 0.6°, 1時間に 36.6°, System II は1分間に 0.6°, 1時間に 36.3° 移動する。

猶ほ回報希望者は3錢同封申込まれたし。

流星課通信

昨年1936年9月及び10月の觀測概況

觀測者	觀測地	9 月			10 月		
		回数	觀測時間	流星數	回数	觀測時間	流星數
小嶺 和枝	和歌山縣金屋	12	2295分	346	7	755分	313
小嶺孝二郎	”	8	520	85	8	785	462
小嶺 茂代	”	2	160	23			
大石 辰次	靜岡縣						12
佐野 英生	福井縣敦賀	3	210	29	3	160	38
實方 雅雄	京都市	1	70	14	3	260	39
宇野 良雄	愛知縣瀬戸市				6	420	110
山田 才吉	廣島縣竹原町				6	560	109
吉井 耕一	福岡市	15	3180	643	12	3802	1318
安武 研二	福岡市	1	30	2			

今回は久し振りで佐野英生氏の觀測を得た。同時は先年長らく微光流星の觀測家として鹽見幸三氏等と共に活躍されてゐたのであるが、個人的事情でしばらく觀測を中止されてゐた。今回居を敦賀港大島の妙顯寺内にうつさるゝに及び再び氏の活躍を見るに至つたことは大きなよろこびである。次に新觀測者として下の方を迎へた。

京城府漢江通16の96 實方雅雄氏

× × × ×

9月には特に顯著な活動を示した流星群はなかつた。たゞ18日朝小楨和枝氏の觀測されたペルセウス η 流星群 ($\alpha=42^\circ$, $\delta=+45^\circ$) はやゝ著しいものであつた。吉井氏が25日朝觀測された駁者座 χ 流星群は1933年9月稻垣(東京), 勝浦(南米) の2氏が見られたものと全く同一の流星群である。

10月下旬のオリオン座流星群

この流星群は宇野, 小楨(孝), 小楨(和), 山田, 佐野, 安武の諸氏によつてよく觀測された。この流星群の今回の出現が異常のものであつたことは觀測者のすべてが驚いたことであつて, その結果の概要は天界 189 號及びプレテン 325 號に發表した通りである。長野縣諏訪の青木正博氏もこの群の觀測をされ, 其の結果を諏訪中學の科學會誌15號に發表されてゐる。

吉井氏は10月12日~17日に互つて羊座 ξ 附近から放射する一流星群を連日追跡され, 其の輻射點が下記の如く東方移動をすることを發見された。

月日(萬國時)	赤徑	赤緯
10月11.51日	31	+12
13.54	35	+11
14.54	37	+10
16.52	39	+10

又24, 25日の兩朝宇野氏は牛座流星群 ($\alpha=54$, $\delta=+16$) を注意されてゐる。

變光星課報告 (39)

倉敷 小山 秋雄

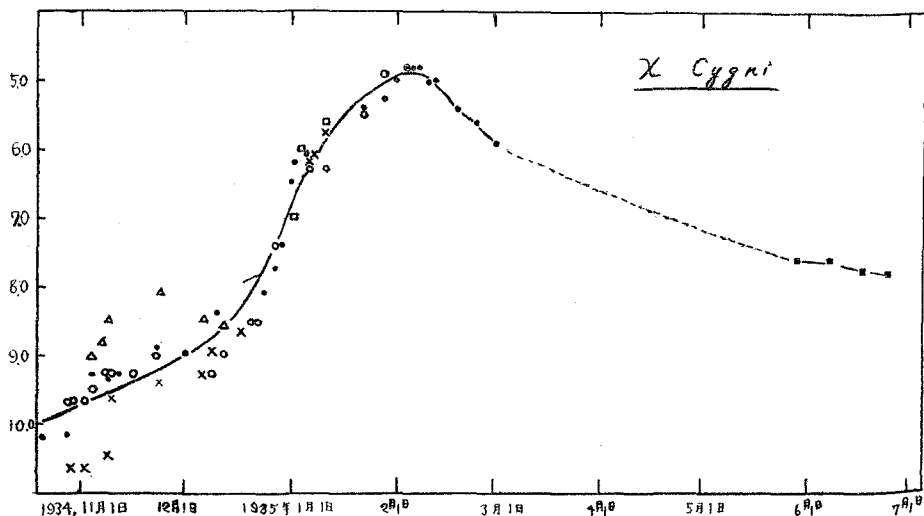
1936年11月—1937年3月の観測報告数 (天界188號の續き)

氏 名	今津 (大津) (續)	木邊 (野洲) (成磨)	沓掛 (長野) (七二)	佃 (京都) (泰三)	小澤 (名古屋) (喜一)	西井 (大阪) (宗一)	西川 (大阪) (英男)	河合 (大連) (孝一)	廣瀬 (美濃) (永治郎)	實方 (京都) (雅雄)	松橋 (東京) (高四郎)	小山 (倉敷) (秋雄)
報告回数 (5回の中)	4	5	5	5	2	5	5	1	3	3	1	5
観測数	171	1626	155	185	323	135	46	51	77	6	17	632

詳細は観測月報(希望者は小山に申込まれたし)を見られたい。此の間廣瀬
サネカク
實方、松橋の3氏を新に迎へ得た。

白鳥座 γ 星

ミラに次いで明るくなる此の星は本年は5月初に極大に達する豫定である。
週期413日で、早朝でないと見えないのは惜いが、双眼鏡があれば樂に目測
できる。星圖は申込次第送る。別圖は1昨年の極大のもので、今津續氏の畫
かれたもの、昨年の極大は西井宗一氏の目測しか手許に報告は來なかつたが
3月中旬で5.1等級に達したらしい。

白鳥座 γ 星の1935年初の極大

● 今津 8.5cm 40×

○ 木邊 2.5cm 屈, 肉眼, 10cm 反射 36×

× 沓掛 3.5cm 8×

■ 小澤 4.0cm 8× 3.2cm 屈 10×

△ 高井 10cm 反射 40×

太陽課 黒點相對數報告 (1937年3月)

觀測者(觀測地)	齋藤(臺灣臺中)	久保(高知高等學校)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	改發(神戸市關守町)	野口(大阪市北區)	木邊(滋賀縣中里村)	正村(岐阜市溝旗町)	沓掛(長野縣青木村)	清水(静岡縣島田町)	大石(静岡縣吉永村)	森久保(橫濱市中區)	堀田(橫濱市鶴見區)	山根(東京市青山)	山名(東京市板橋)	御供(東京市立一中)	千葉(岩手縣水澤町)
鏡徑耗	50	75	80	150	76	75	25	102	100	55	45	38	47	76	48	50
倍率	50	53	70	68	50	60	48	75	73	64	60	50	43	77	50	50
1	曇	雨	曇	曇	欠	雨	曇	曇	曇	雨	曇	欠	曇	曇	曇	曇
2	179	155	155	198	141	153	雨	雨	曇	曇	雨	雨	曇	雨	雨	曇
3	雨	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇	曇	雨	雨	雨	雨	曇
4	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
5	97	117	111	104	105	74	70	83	75	70	79	72	143	127	121	曇
6	100	86	欠	欠	74	84	欠	65	72	欠	47	62	78	160	61	曇
7	106	欠	欠	欠	84	欠	欠	107	欠	欠	86	曇	欠	曇	欠	曇
8	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	160	123	172	138	129	135	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	130	90	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	120	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	56	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	39	30	48	31	39	26	26	26	27	28	24	23	曇	曇	曇	曇
17	44	30	51	31	27	24	欠	欠	欠	欠	27	40	曇	曇	曇	曇
18	50	26	50	24	51	24	25	25	48	曇	曇	35	曇	曇	曇	曇
19	曇	欠	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	23	曇	曇	曇	曇
20	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	22	曇	曇	曇	曇
21	61	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	48	曇	曇	曇	曇
22	129	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	60	曇	曇	曇	曇
23	欠	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	76	曇	曇	曇	曇
24	67	150	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	雨	曇	曇	曇	曇
25	曇	81	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	77	曇	曇	曇	曇
26	雨	135	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	78	曇	曇	曇	曇
27	曇	150	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	65	曇	曇	曇	曇
28	曇	136	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	76	曇	曇	曇	曇
29	曇	114	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	65	曇	曇	曇	曇
30	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	67	曇	曇	曇	曇
31	曇	181	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	63	曇	曇	曇	曇
日數	1	23	12	12	17	21	20	15	10	12	8	22	6	14	12	12
平均	—	112	96	111	93	93	83	154	82	71	—	55	—	170	75	69

●清水氏の寫眞觀測はイタリツク字體の7日。

●久保氏の詳細なるスケツチの他今月は堀田氏からも同様なスケツチの報告がありました。

●野口氏、沓掛氏から毎月黒點の概略の緯度が報告されてゐます。